

## 会議録

|   |   |
|---|---|
| 会議の名称   | 第6回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会  |
| 開催日時  | 平成24年1月13日 14時00分から16時00分まで   |
| 開催場所  | 保谷庁舎 別棟B会議室   |
| 出席者   | 委員：伊藤会長、貫井副会長、石黒委員、長谷川委員、本橋英次委員、富岡委員、本橋正明委員、宇田川委員、山田委員、高井委員、櫻井委員<br>事務局：宮坂主幹、稲船主事<br>オブザーバー：東京都農業振興事務所 小澤農政係長<br>柴田委員は所用により欠席 |
| 議題  | 1. 開会<br>2. 議題<br>(1) 今年度の実施状況<br>(2) 部会の経過報告<br>(3) 実施計画について<br>(4) その他  |
| 会議資料の名称   | 資料1 第6回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 平成23年度 事業の実施状況及び検討事項（案）<br>資料2 第6回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 部会経過報告                     |
| 記録方法  | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録          |
| 会議内容  |   |
| <p>1. 開会</p> <p>○会長：<br/>本日は柴田委員が所用の為欠席。</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 今年度の実施状況</p> <p>○事務局：<br/>資料-1 平成23年度 事業の実施状況と検討事項 1ページ「平成23年度事業実施状況と今後のスケジュール」について説明。</p> <p>○会長：<br/>(仮称) 農のアカデミー体験実習農園については、昨年度策定した実施計画の9ペー</p> |   |

ジの整備内容を示した図面と、本日の資料-1の9ページのゾーニングと各活動内容を図示したものに違いがあるのか。変更点があれば説明をお願いしたい。

○事務局：

基本的には、整備内容に変更はないが、レイアウトが変更になる。研修ハウス、道具小屋については、ビニールハウスを2棟建てる予定になっているが、資料で示してある場所とは設置場所が異なる。また、トイレや水場も設置場所が異なる。

○事務局：

昨年度、実施計画を作成した際に、本農園については子どもの農業学習、体験学習の場として活用するということで整備を進めている。また、堆肥置場については、当初設置を予定していた場所は南側に民家が面しており、臭いが発生した時のことを考えて敷地の北側へ移動させることにした。

○会長：

今年度の事業についていくつか説明があったが、保谷駅北部エリアの（仮称）花摘みの丘農園については、後ほど説明があるということで、次に各部会の経過報告を事務局よりお願いしたい。

## (2) 部会の経過報告

○事務局：

資料-2 部会経過報告について説明。

○会長：

参加された委員の方より補足があればお願いしたいと思う。まずは、ハード整備を行っている保谷駅北部エリア部会については、補足等何かあればお願いしたい。

○副会長：

特に補足はないが、（仮称）農のアカデミー体験実習農園については、整備を行っている場所が放任状態だった土地なので、畑として利用できる状態の土地ではなかった。耕作に必要な表土を入れるのに適切なものを選ばないと時間がかかってしまうという話なので、その点が少し気にはなっている。

○会長：

もう1箇所の保谷駅北部エリアの（仮称）花摘みの丘農園については、ソフト整備の話も出ていました。本事業の中で行うのはまだ先の話かと思いますが、ソフト整備については現在まで検討課題として挙がっているという理解で良いのか。

○委員：

数日前に（仮称）花摘みの丘農園を訪ねてみたが、花摘みで使用するプランターが届いたばかりで、苗はまだ10センチメートル程度にしか育っていない。4月に開園ということなので、それまでに花が咲くかどうかを農園主の方も気にしていた。また、切花の栽培も初めてだということなので、不安が色々あるようで、事務局としてはそのよう

な支援体制についてどのように考えているのか教えていただきたい。

○事務局：

（仮称）花摘みの丘農園については、ハードの整備が整ったということで、農園主さんが開園までに花の栽培が間に合うか心配していることは把握している。しかし、開園は4月という前提で事業の計画を立てているので、4月に開花するものから花摘みに利用していくしかないのではないかと。また、今後の支援体制については、今後協議していきたいと考えている。

○会長：

（仮称）花摘みの丘農園は、初めての切花の栽培や4月の開園に花の栽培が間に合うかという農園主の方の心配事については、開園時期を状況に応じて柔軟に変更をすることも可能なのか。

○事務局：

基本的なスケジュールとして、4月開園を考えており、開園時期と花の準備等については、今後農園主の方と詰めていかなければならない。状況を把握しながら進めていきたいと思う。

○委員：

基本的なことだが、保谷駅北部エリアの2つの事業は、所有者の方々は農業者の方ということか。

○事務局：

（仮称）花摘みの丘農園は農業者の方で、（仮称）農のアカデミー体験実習農園については、この土地は農地ではなく市が借地をして直営で事業を行うという考え方になる。

○委員：

（仮称）花摘みの丘農園については、農業者の方が協力することなので、進行状況が把握しやすく事業もスムーズに進むかと思うが、（仮称）農のアカデミー体験実習農園については、借地ということだと農園の指導者、スケジュール、組織の運営等を誰が行うのかははっきりしないのではないかと。

○事務局：

指導者への依頼をはじめ準備を進めている。

○会長：

次に、保谷駅南部エリアについては、2回開催した部会では、既存の蔵と協力農家の住宅の敷地の扱いを含めていくつかの案を検討してきた。土蔵部分と蔵の部分を床のある空間として、一体的に整備をおこなうという計画案になってきている。

田無駅南部エリアについては、事業の方向性が田無駅南部エリアを中心にして植木の普及を行っていくということになっているが、具体的な整備について何か意見等があれ

ばお願いしたい。

○委員：

田無駅南部エリアでは、具体的に何かを建てて植木を見せる場所を整備するというのではなく、市民にもっと植木について理解を深めてもらうということを目的として植木の講習会を開催したりするということか。

○事務局：

そのように考えている。

○会長：

今の質問にあった田無駅南部エリアでの事業展開については、本日の議題3につながっているので、後ほど事務局より説明をしてもらいたいと思う。

○事務局：

これまでの部会の経過の報告と今の質問の内容はリンクしているので、ここで説明をしたいと思います。資料-1 平成23年度 事業の実施状況と検討事項 2. 田無駅南部エリアの実施計画修正案について説明。

○会長：

田無駅南部エリアの昨年度の実施計画からの変更点としては、事業のねらいの中で「植木を活かしためぐみちゃんマーケットの開催」から「植木の学校（講習会等）の開催」へ変更している。また、実施方針では「交流拠点を整備し」から「交流エリアを設定し」、「直売所等と連携して」から「植木の学校（講習会等）を開催し」へ変更している。以上が実施方針の中での修正案ということになるかと思う。田無駅南部エリアはもっと植木に焦点をおいて、よりソフト整備に重点をおいて事業の整備を進めていくということかと思う。

○事務局：

今まではハード整備に関しては全て「交流拠点」という表現をしていたが、田無駅南部エリアにおいては、拠点という箱ものを整備しないので、「交流エリア」という表現に変更した。また、めぐみちゃんマーケットを交流拠点で展開するという考え方だったが、交流拠点という箱ものがなくなるので、まずはイベント等で開催を行い、軌道に乗せていければと思う。

○委員：

事業に協力をしてもらえる植木農家の方々に話をうかがったところ、本事業に最も協力できることとしては、実技を見せることだということで、資料-1に記載されているような「植木の学校（講習会等）」や農家のそれぞれの方にご協力いただいて、樹名板や案内板の設置ということになるかと思う。例えば植木の学校等の人が集まるイベントは、集客が見込めるのでめぐみちゃんマーケットも併せて開催できれば、どれくらいの手応えがあるのかも知ることができるのではないかと。サーカスの様に移動ができる形のものからスタートした方が汎用性が高いのではないかと。

○会長：

本日提示された修正案は、農業者の方々との協議や意見交換を踏まえた上での修正だと思うので、今後も農業者の方々からも協力を得ながら計画を具体的に進めていくことも必要となるのではないかと。本事業の補助は平成25年度までなので、ハード整備が中心となっている場合には、行政が中心となって整備を行い、担い手へバトンを渡すということになるということがイメージし易いが、提案されているような植木の講習会等を継続的に開催するというのは、農業者やJA等の関連のある人や団体の協力が第一前提となる。そして市全体で考えた場合、緑化という観点からも市役所の中のみどり公園課の立ち位置にも深く関わってくるのではないかと。

○委員：

みどり公園課としては、趣旨的に緑地を拡大することが仕事として大きな面があり、そして市民の方々に緑や樹木の大切さを学んで理解してもらうことが重要となるので、会長が指摘するようにみどり公園課としては継続的に事業へ協力をしていきたいと思う。

○会長：

今後も田無駅南部エリアの部会が進んでいくので、場合によってはみどり公園課にも部会に関わっていただく等、事務局と調整を図りながら事業に取り組んでいければうまく進んでいくのではないかと。

○東京都：

資料-1の3、4ページは実施計画の内容の変更ということだが、表現の仕方として、樹名板や案内板についての記述は、西東京市の生産者側のことや西東京市産のもの等の農サイドの表現を強く出してもらわないと、緑や公園関連の部署が整備を行う事業と混同されてしまう。表現を工夫してほしい。

○副会長：

西東京市では以前市民に緑の保全を推進する為に、苗木の無料配布を行ったりしていたかと思う。苗木の無料配布を植木の講習会の際に行い、剪定等を学んだ後にどこかへまとめて植樹してもらおう等の可能性も考えられるのではないかと。講習会で使用する植木は西東京市内の植木農家が栽培したものを利用し、販促のような形で取り入れていってはどうか。

○委員：

植木というのは、西東京市だけで育つという種類のもはまず無いと思うので、使用する植木に特徴を持たせた方が面白いのではなか。農家の屋敷には樹種のサイズ等はあまり気にせずに植えられているかと思うが、普通の住宅に植えられる樹種というのは、土地のサイズの制約等により限られている。葉張りが広い、縦に高く成長する樹種よりは、匂いや紅葉を楽しめる木や風除けとなる常緑樹等、住環境に適したものが興味を持たれるのではないかと。展示の方法はこのような樹木を意識的に見せるようなアレンジを、多摩湖自転車道路沿い等へ配置してはどうか。展示の際には、落葉樹、常緑樹、色

の変化があるもの、葉の形がハート等特徴のあるものといった感じで、見る人が惹きつけられるものを意識的に配植したら良いのではないか。このような取り組みは育苗の業者でも研究をしている。

○副会長：

そういう見本園となる場所に特徴のある樹木を配植するという考えは、面白いと思う。また各樹木に樹名板を設置して、特徴等の説明書きやコメントを掲載するのも良いのではないか。ただ、多摩湖自転車道路沿いの広範囲に渡ってこれを実行することが難しいようにも思えるので、一定のスペースを利用して行うイメージではないか。市民には植木のPRの場になると思う。

○東京都：

今のご意見に追加させていただくと、西東京市産の植木というのは市民の方々にあまり認知されていないという話もうかがったので、そういうことも含めてPRしたり、地元の植木職人、地元で生産された樹木ということを強調した表現を3、4ページで表現してもらえれば特徴が出てくるのではないか。

○委員：

地元の植木農家の方々に協力をしてもらうという話は非常に望ましいことで、例えば市民を対象にした植木の相談会を開催しても、相談会の看板を掲げるだけでは人が寄ってこないことが多い。ところが地元の植木屋が無料で植木の相談にのるという事になると、日頃植木屋さんと接する機会の無い人がほとんどなので、食いついてくることが多い。また、今まで植木に関して疑問に思っていたことを植木屋さんに質問することもできる。植木屋さんは、落葉している樹木でも枝ぶりを見ただけで何の木なのか分かるし、市民の目から見ればすごいとを感じるものがあるので、市民にとっては植木屋さんと対話ができることだけでも価値のあることになるのではないか。先程の指摘にあったように、地元の植木屋さんといった感じの泥臭さを表現してもらった方が、計画としては尚更良いのではないか。また、樹種の話に関しては、植木の即売会を開催した時に感じるようなのだが、大きい植木はほとんど売れない。一番よく売れるのは、1～1.5メートル程度のもので、ベランダで育てる家庭が多いようで重宝されている。この程度のサイズの樹木は、持ち運びができる大きさなので人気があるのだろう。聞いた話では、大きくなならない樹木を下さいと言うお客さんもいるそうだ。通常植木の価格は、サイズが大きくなればなるほど値段が高いものだが、今多くの人々が求めているのは大きくなならない植木で、昔に比べると住宅事情もあってかニーズがかなり変化してきている。植木を欲しがるといえるのは、意外と一戸建てに住んでいる人よりもマンション居住者の方が多いそうだ。その辺も踏まえて新しいニーズを取り入れながら樹種の選定等も検討していったらどうか。

○会長：

皆様のご意見を聞いていて思いつきではありますが、ただの樹名板を設置するのではなく、発想を少々変えて西東京市民の人気ランキングや売れ筋のものを表記した樹名板の設置も面白いのではないか。

○委員：

先だって事務局の方には西東京市で生産されている樹木の一覧表を渡しているが、植木の生産は旧田無市が中心となっていて行われており、需要が高いものとしてはツツジが多いようだ。

○事務局：

リストによるとサツキ、クルメツツジ、ベニキリシマツツジの順に生産されている量が多いようだ。

○委員：

主に道路の補植用の植木を生産している農家が多いかと思う。

○事務局：

市の木はハナミズキである。

○委員：

余談になるかもしれないが、井の頭恩賜公園等に設置されている「思い出ベンチ」はベンチを寄付してもらい代わりに、ベンチに設置されるプレートにメッセージを残すことができる。差別化ではないが、事実だけではなく何かこのような物語が伝わる発表の仕方が求められるのではないか。

○事務局：

田無駅南部エリアの設定方針と事業内容、事業イメージについては、指摘があったように、もう少し西東京市産に特化した表現に修正したいと思う。また、樹種の選定次第で市民の興味を高めるといった意見については、大変面白い話で参考にしたいと思う。また、植木の講習会で使用した樹木をどこかに植えてみるという話等も、まだ具体的にどこで反映することができるかは分からないが、取り入れることは可能だと思うので、常に念頭に置いておきたいと思う。今まで委員の皆さんから頂いた意見は参考にさせてもらい、生産者の方々にも相談しながら進めていきたい。例えば、植木の講習会で剪定を行う為の木を西東京産のものにすることなどは取り組みとして可能性があるかと思う。また、講習会と同時にミニチュア品評会やミニチュア即売会に特徴のある木を持ち込むことについては、時期の関係もあるかと思うので、生産者の方々と調整をしながら検討を進めていきたいと思う。

先日、みどり公園課で毎年行っている苗木の無料配布を見学してきたが、早朝から沢山の人が並び、恐らく400～500名程度は並んでいたのではないかと思う。市民の方々は興味を持っているのだという認識を得た。

○会長：

資料-2 めぐみちゃん弁当・メニュー部会、めぐみちゃんマーケット部会について、部会に参加された委員の方で補足等があればお願いしたい。

○委員：

私は第1回めぐみちゃんマーケット部会には、別の会議と予定が重なってしまい参加

することができなかったが、マーケットの野菜について2、3話をさせてもらいたい。JAの野菜担当者に聞き取り調査を行ったところ、大きく分けて5つの視点の意見をもらった。

1つ目は、多種多様な品物の販売が必要である。生産者は販売はあまり得意ではないので、生産者以外の人たちで行う必要があり、その方が品数も集まりやすい。デメリットとしては、生産者の顔が見えるという点からは外れてしまうことが考えられる。また、農作業が滞ってしまうので、生産者が一日中販売に携わることは難しいので、調整をする必要があるだろう。

2つ目としては、販売場所をどこにするのか。特定の場所をマーケット開催場所と決めても、お客さんに認知されるまでに時間がかかると思われるので、まずは市内のイベントの中でマーケットを行い、めぐみちゃんマーケットという名前自体を広く市民に認知してもらう必要がある。マーケットでは新鮮で安全・安心な西東京市産の農産物を手に入れることができるというコンセプトを刷り込んで、広めていってはどうか。

3つ目に販売価格を低めにし、例えば仕入れ値が100円でも販売価格は80円とし、不足分は助成を行いカバーしていくようなことを検討してはどうか。

4つ目に、生鮮食品を扱うことになるので、エラーが出た際の苦情等への対応が出てくることも想定しておかなければならない。事業の実施主体や販売主体を誰が行うのが重要になってくるのではないか。

最後の5点目は、農家の方々に継続して安定的に農産物を提供してもらうために、基本的には買取り方式にし、商品1つあたりの単価を安く仕入れられるようにしてはどうか。

○会長：

今のご意見をまとめると、1番目に販売をする販売主体が誰になるのかということ、2番目に認知度を高めることを目的にして、市でのイベント等に出店して提供していく取り組みが大事ではないかということと、3番目に価格助成という話で1番目とリンクし、4番目の苦情対応は誰がやるのか、販売主体が誰なのかということと、そして3番目の価格助成と近いが、5番目のポイントとして仕入れ時の農産物の買い取りの話がある。この5点、JAからのめぐみちゃんマーケットに関しての検討課題という形での投げかけだと思うが、このことについては部会等を通じて今後検討してもらえればと思う。

### (3) 実施計画について

○事務局：

資料-1 3. 保谷駅北部エリアの事業支援策について説明。

○会長：

公的活用準備支援については、花摘みの丘農園に限らず他の事業にも共通することと becoming くるもので、本事業で行う意味、西東京市としての取り組みや位置付けということになってくるかと思う。事務局の方でまずたたき台を作ってもらえればと思う。

○事務局：

冒頭にも報告したように、東京都の支援委員会において本事業については、庁内の所管課で活用を考えるだけでなく、市全体として本事業で行う取り組みを活用できない



のかという意見をいただいている。庁内委員の教育企画課あるいはみどり公園課より可能性についての意見をいただきたい。

○委員：

教育部の方では、年間カリキュラムをそれぞれの学校が検討しているところで、会議を通して本事業の教育分野内での活用について情報提供を進めていければと思う。

○委員：

みどり公園課としては、事業の内容をもう少し検討させてもらい、緑サイドの方で本事業に協力できることを模索したいと思う。

○事務局：

公的活用については、花摘みの丘農園だけではなく、他の取り組みも含まれるので、例えば田無駅南部エリアにおいては農業景観散策会のようなものを緑サイドでも想定するのであれば、協力を進めていきたいと思う。

○委員：

みどり公園課の方では、市内にいくつかのコースを設定し、市民団体と一緒にみどりの散策マップを作成する予定となっており、そのコースの中に田無駅南部エリアも含まれており、多摩湖自転車道路を中心に散策を行うことになるかと思うので、農業者を前面に出すことも配慮し、緑のことも考えたものに協力をしていければと思う。

○会長：

農のアカデミー体験実習農園の公的活用の話としては、エリア内の保育園・幼稚園、小学校、中学校等に活用してもらうことが考えられるが、それぞれ公的機関の管轄する部署が違ってくると思うので、どのような部署が関係する可能性があるのか、メンバーは誰になるのか等を整理し、そこへ協力を求められるようにしていく必要がある。これは事業の継続性に関わってくることだと思うので、きちんと整理してほしい。

○事務局：

資料-1 4. 農のアカデミー体験実習農園事業実施方針案について説明。

○会長：

ちびっこ農園は、基本的に学校等の団体を相手にすることが原則なのか。

○事務局：

現段階では団体対応のみとし、一般の利用者の利用は考えていない。事業の立ち上がりとしては、まとまった数の子どもたちに利用をしてもらうことを想定しており、様子を見ながら検討していきたい。

○会長：

運営方針を指導役の方たちを中心にして運営をしながら検討していくということになるかと思う。

(4) その他

○事務局：

資料-1 5. 農業フォーラム企画案について説明。

○会長：

パネルディスカッションのパネラーがあと1名決まっていけないとのことなので、推薦もしくは立候補がいれば事務局へ知らせてほしい。

○事務局：

講師の先生については、前回の講演の際に時間が足りず消化不良なところもあるので、昨年に引き続き武蔵大学の後藤光蔵先生にお願いしている。また、農業フォーラムの開催日については、後藤先生のスケジュールの都合もあり、本委員会に諮らずに事務局で2月19日（日曜日）に決定させていただいた。パネラーは、昨年のフォーラムでもパネラーをお願いした本委員会の貫井副会長にお願いしている。2人目のパネラーの河合氏は、農に関連した市の事業（親子で野菜作りにチャレンジ、その他直営事業）に協力をしていただいております。野菜生産農家の立場としても話をしてもらえればと思っている。また富岡委員へ体験農園を運営している立場から話をしてもらえればと考えていたが、あいにく富岡委員の主宰する体験農園の説明会と日程が重なってしまい参加が難しいので、他の方をあたっていているところだが今のところ未定となっている。パネラーとして誰か心当たりがあれば、事務局へ知らせてほしい。

○委員：

残念ながら説明会と重なっており参加ができないが、私の運営する農園の入園者の方で一人パネラーとしての心当たりがあるので、あたってみたいと思う。一般市民の方だが、体験農園の経験も長く、市民の目から見た体験農園の話や、市民サイドからの農について意見をもらうことも大事なのではないかと考えて推薦したい。

○会長：

私がパネラーとして思い浮かぶ人は、本事業に関係のある人で例えば農のアカデミー体験実習農園での指導役となる農業者の方や、めぐみちゃん弁当・メニューに関連して野菜ソムリエの方等も候補となるのではないかと。

○委員：

話が前後してしまうが、農のアカデミー体験実習農園の指導役については、ある程度体験農園等で教えたことのある経験者が適しているのではないかと。またスタッフについても体験農園を5～6年程度体験して、ある程度分かっている人がメンバーとして入っている方が実践的だろう。市民農園経験者は独学の方が多いので、指導員を養成する農園なので技量が統一されていないといけないので適していないように思う。是非とも協力してくれそうな方に声かけをして集めていってほしい。

○会長：

市内に野菜作りに積極的に取り組んでいる学校はどのくらいあるのか。

○委員：

田無小学校は東大生態調和農学機構の農場との連携でヒマワリを栽培して搾油をしている。

○委員：

芝久保小学校や上向台小学校、柳沢小学校等は農家の畑を借り、農家に協力をしてもらいながら児童が播種から収穫、食べる取り組みを授業の枠の中で行っている。農のアカデミー体験実習農園の中のちびっこ農園にリンクするものがあるかと思う。

○会長：

本来の事業に関連する形で少しずつ広がっていくきっかけになればと思う。

○事務局：

農業フォーラムのパネラーの選定については、本日いただいた意見を参考に事務局、会長、副会長に一任するというようお願いしたい。

○事務局：

昨年開催した第5回推進委員会の会議録を委員の皆さんへ送付したが、本日までに修正・訂正がなければ確定版ということにさせていただきたい。

○委員一同：

了承。

○事務局：

次回の第7回推進委員会の日程は、2月24日（金曜日）の午後2時からを予定したいと思う。念のために2月23日（木曜日）を第2候補日として予定しておいていただきたい。会場については、改めて事務局より連絡をしたいと思う。

以上